


**地域創生**

**keyword**

- 生涯学習
- 高齢者教育



**神部 純一**  
Junichi Kambe

社会連携研究センター  
教授

**【プロフィール】**

- ・1987年 同志社大学文学部卒業
- ・1993年 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期単位取得退学
- ・2012年～ 滋賀大学社会連携研究センター教授

**【主な社会的活動】**

- 所属学会
  - ・日本生涯教育学会
  - ・日本社会教育学会
- 委員
  - ・滋賀県基本構想審議会委員
  - ・滋賀県教育振興基本計画審議会
  - ・大阪市社会教育委員会議
  - ・伊丹市社会教育委員の会
  - ・草津市子ども・子育て会議
  - ・東近江市男女共同参画審議会
  - ・京都市放課後対策事業検討委員会 等
- 講演
  - ・「高齢期は学びの時——一人ひとりが豊かに生きるために——」(彦根市)
  - ・「社会教育が地域を豊かにする——地域学を通じてまちづくりの種を育てよう——」(兵庫県)
  - ・「これからの社会教育委員に求められるもの」(京都市)

**【代表的な研究テーマ】**

**□ 地域の生涯学習機関としての大学の役割**

**課題解決に役立つシーズの説明**

主な研究関心は、地域における生涯学習システムの研究開発にある。近年の生涯学習振興行政・社会教育行政においては、「社会の要請」への対応が重要課題になっているが、社会・地域課題を解決するためのプログラム開発に取り組んでいる方々には参考になるのではなかろうか。

大学は、かつて研究と教育を使命とし、地域へのサービスを大学の使命として積極的に位置付けようとはしてこなかった。しかし近年、生涯学習社会の成立において大学等の高等教育機関が果たす役割の重要性が指摘され、一方、大学の側からも18歳人口の減少への対応の必要から社会人の大学への受け入れ等、大学開放を促進する動きが活発化している。地域貢献は今、研究や教育とともに大学の重要な機能の一つとして認識されるようになってきている。

こうした動きの中で、研究の一つとして、大学の知的資源を組み込んだ、地域の生涯学習システムの開発に取り組んできた。その事例として「淡海生涯カレッジ」がある。

「淡海生涯カレッジ」は滋賀県との共同研究の中で生まれた学習システムである。1996年度に滋賀県の大津市をモデル地域として「琵琶湖学習コース」が開設されて以来、環境問題を中心に、県民に体系的に学ぶ機会を提供している。カレッジではまず、公民館が「問題発見講座」を担当する。この講座は、市民が身近な環境問題についての意識を高めることを目的としている。次に、高校が「実験・実習講座」を担当する。この講座では、実験や実習を行う。そして最後に、大学が「理論学習講座」を担当し、講義を中心とした理論的な学習機会を提供する。学習者は、これら3つの講座を環境についての学習を深めていくことになる。



また現在は、地域学のシステム開発にも関心を持っている。地域づくりは本来、そこに住むすべての人が何らかの役割を持ちながら地域づくりに参画し、互いに学びあい、コミュニケーションを深める中で活性化していくものである。その際、多くの住民が参画しつつ、継続した地域づくりを進めていくためにはまず、住民一人ひとりの心の中に、自分の住む地域に対する愛着と誇りを育てることが大切だと考えている。最近各地で、地域について学ぶ機会としての「地域学」が立ち上げられている。住民一人ひとりがこうした学びを通じて、地域の良さを発見し、そして再評価していくことが、彼らの地域への愛着を深め、ひいては地域づくりの担い手として行動する人づくりにつながるのではなかろうか。

**企業・自治体へのメッセージ**

- ・地域づくりの担い手育成に関するシステムの共同開発・共同研究を希望します。
- ・高齢者の社会参加に関する共同研究を希望します。